

	研修部 部会記録				
日時	令和3年10月6日 15:30～16:55				
部会名	研修部 授業実践部会			主任	森野 淳
参加数	38名（オンライン参加30名）	司会	森野 淳	記録	新井 敬子
研修内容	【一斉授業研 指導案検討】 講師 横浜市立森の台小学校 校長 大幸 麻理先生 場所 zoom リモート研修（横浜市立桜岡小学校）				
	1. 「曲や演奏の楽しさに気づいて聴こう」 横浜市立岸谷小学校 五反田 仁美先生 第1学年 中心教材 おどるこねこ ルロイ・アンダーソン作曲 ・五反田先生より 低学年なのでワークシートより体を動かす活動にしたい。猫の鳴き声を表す特徴的なフレーズを聴き取らせるために、どんな動きをさせるのが適当か迷っている。Aの部分に注目させて動きの形をしぼりたい。3拍子の動きをする児童と猫の動きをする児童に分けて役割分担して動くのはどうか。鳴き声フレーズが何回出てきたかを数えながら聴かせると、集中して聴くのではないかと考えたが、音楽的な視点がはっきりしない活動になる（曲想と関連付ける、曲全体のしくみを理解するなど）ため、やらないほうがいいか。曲に合わせて体を動かす活動にすすんで取り組めない児童に対する手立てで有効なものがないか。 ・はじめに全曲聴かせるか一部を聴かせるか→猫の鳴き声のフレーズの繰り返しに注目させたいので、Aの部分だけ聴かせる。 ・動機のフレーズに「こねこちゃん」「にゃーお」の言葉を当てはめて呼びかけて応えるやりとりをさせると楽しい。何回出てくるかと数えなくてもテーマに着目できる。 大幸先生：回数よりもどこで「にゃお」が来るのか予想することや、そこを体で表現することの方が有効。 ・曲との出会い方は曲名をふせて、曲の特徴を聞き取るような質問をして、猫が踊る曲だよというゴールに絞っていきたいが。 大幸先生：子供に何の動物かと問うと動物をたくさん連想してしまうので、何をしている猫なのか、という部分を意識させて曲と出合わせるなどで、曲想を捉えさせたい。 ・「かめ」の鑑賞の時に曲名をふせて何を表しているか聞いたら動物当てクイズになってしまった。名前あてではなく、雰囲気を感じ取ることを大切にしよう意識している。 ・猫なんだよ。何してるのかな？がいいのでは。 ・ABAの違いを感じ取らせるために、鳴き声が聞こえるか聞こえないかを考えさせるのもいい。曲の構造が掴める。 大幸先生：体の動かし方は、3拍子の動きと猫のまね、というように役割を決めて動くというのは1年生には難しい。聴き取った感じから一人一人それぞれが自由に十分動いたうえで、子どもによって3拍子だったり猫の動きだったりするということが見られるはずだが、グループ分けするのではなく、とにかく友達の動きを真似するようにと声をかけていると、子ども同士の動きはだんだんそろってくる。曲に乗って体を動かすという経験の足りない子供もいるので、「同じ動きをしてごらん」「楽しくなってきたね」などで励まし、猫の真似が出たら「よく聴いていたね」と取り上げるとみんな真似したりする。そうしながら何度も聴いて曲に慣れ親しむ。動きの苦手な児童3名も、真似して動くことが楽しくなってくるという。				

2. 「様々な発想を生かし、思いや意図をもって全体のまとまりを意識した音楽をつくろう。」

横浜市立西柴小学校 坂本先生

第6学年「循環コードをもとにアドリブで音楽を作ろう」

- ・ガレージバンドの鍵盤アプリを使用します。
- ・坂本先生より

和音進行の繰り返しなど習った知識を使ってつくらせたい。自分に自信が持てない児童が、自分の旋律をなかなか音にすることができない。演奏が苦手という理由の児童にはガレージバンドで鍵盤を演奏させたら、取り組みやすくなると思う。思考判断の拠り所は旋律ではなく、和音と反復としたい（訂正）。循環コードとの出会いを、アルゴリズム体操を使い、循環に気づかせて楽しく活動に入りたい。第一時は取り組みやすくするために、はじめはドラレソだけを使って旋律を作らせる。発展したら、伴奏をアルペジオにしたり変形させて自分の作った旋律が素敵に聞こえるようにして、好きな伴奏を選んでそれに合わせて即興的に演奏させたい。

循環コードは録音しておき、連続演奏にしてこれに合わせてガレージバンドの鍵盤を触って試しながら音楽をつくる。ガレージバンドの伴奏はエアドロップで児童のタブレットに送る。ガレージバンド内に、児童の旋律を取り込んで聞き合って共有できる機能もある。

はじめは音が決まっている（ドラレソ）ので、リズムだけ工夫し、次の時間に経過音を入れさせてさらに工夫させ、第3時には友達の旋律と繋いでグループの演奏を作る。旋律を即興的に繋げる中で反復を使ったりできるとよいが、難しいか。

- ・第1時は、リズムのみの即興演奏だけではなく音の工夫もこの時間内にできる。そのぶん第2時に工夫の時間を多くとってあげたい。
- ・はじめから反復を求めるのではなく、中には友達の演奏を聴いて繰り返している児童がいると思うので、それらを取り上げて反復にもっていくとよい。
- ・たくさん試行錯誤させて、子供たちの作った演奏をいかに価値づけるかが大切だと思う。これは反復だね、とか、まとまりがある、など。

大幸先生：音楽作りで悩むのは、友達と繋げるという活動。ここでまた、まとまりなどを考えなければならぬ。ここでは、即興演奏が循環コードに乗って表現できればよい、というところを目指す。その中でAさんがBさんに繋がった時に、前の旋律を使っていたりするペアなどが出たら紹介するといい。はじめからそこありきではなく、アドリブをそれぞれが楽しめればよい。循環なので、1人の旋律もリピートさせた方がよい。同じ旋律でもいい。伴奏のパターンを選べるとしたら、ペアは同じ伴奏を選んだ相手にするのか。そこは考える必要がある。

リモートということで時間が十分にとれない部分もあるが、皆さんでいい授業研究にして学び合いましょう。

3. 事務連絡

- ・一斉研究会の際の小教研共通ドライブに登録作業をしてください。（通知文あり）
- ・来月は模擬授業をリモートで見ていただきながらご意見を伺う形の検討になります。2会場でそれぞれ行うので、希望する会場の方へご参加をお願いいたします。